

伝統工芸展開催



下町文化

第 187 号

平成 9 年 10 月 15 日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課

文化財保護強調月間

いよいよ大詰め!!

文化財保護強調月間もほぼ半ばを過ぎ、角乗・力持公開や文化財の殺虫・燻蒸サービス、そして歴史と生活展など、行事のほぼ半分を無事終了いたしました。10月半ばからはいよいよ後半戦に突入し、19日には民俗芸能大会、29日からは伝統工芸展を開催いたします。

ぜひ地域に根ざした伝統の「技」をご覧ください。

伝統工芸展

10/29(水)～11/3(日)

伝統工芸展は、10月29日から11月3日まで「工匠館」(森下文化センター)内、午前9時から午後5時まで。入場無料)においておこないます。

現在江東区では52人の職人さんの「わざ」を文化財として指定・登録していますが、作品や道具として実演を通してそのすべてを紹介するのが、この伝統工芸展なのです。

メイン会場となる多目的ホールでは、江東区で仕事をしている職人さんたちや、今は亡き工匠の手による伝統工芸作品や一部道具が展示され、また「わざ」を直に見ることができ、実演公開がおこなわれます。

伝統工芸は、技術を修得した職人さんが、日常のさまざまな生活品や趣向品を製作することです。今日の生活を支える物資の多くは工場で製造されているものですが、かつてはそれらのほとんどが職人の手づくりによるものでした。現在でも、製品の精度や風合い・芸術性が求められるものについては、職人の手によってつくられる品が尊ばれます。

一人の職人が「一人前」になるまでには、技術の修得のために多くの時間が費やされます。そしてその技術は、職種によって差異はあるものの、おおむね百年から数百年にわたって人から人へと受け継がれてきたものなのです。伝統工芸展の会場で、この技術の深みに接することができると思います。では、伝統工芸展の

会場について、順に見ていくことに
しましょう。

展示・解説

さまざまな職種の職人さんの仕事
道具や作品を展示します。工業製品
とは一味も二味も違う、熟練の工匠
による作品からは、手作りの味わい
を十分に感じ取ることができること
と思います。

展示される作品には、漆塗りや木
彫刻、桶、提灯といったなじみの深
いものや、カットガラス（切り）、
刺繍、染織、指物、相撲の化粧廻し
や呼び出しさんの裁着袴など地域と
しての特色豊かなものまであつて、
職人・職種の豊富さが実感できると
思います。ひとつの工芸作品として
見ても、また作品の背景となる生活
や歴史に思いをはせても楽しめるの
ではないでしょうか。



船大工道具の展示

実演公開

職人さん

による実演
が、期間中
の29日(水)か
ら、3日(月)
の間にわたつ
ておこなわ
れます。普
段は見ると
のできな
い、本物のわざの
この機会にぜひ一
い(日程は表を参
照してください)。



職人の技の 体験コーナー

職人さんの話を聞きながら、すこ
しだけ仕事を体験することができま
す。伝統工芸を体験できる機会は、
そう多くはありません。興味がある
方はチャンスです。抽選や人数制限
はありません。わずかな時間ですが
職人さんに弟子入りしたような気分
を味わえることと思います。

当日、開始前に館内アナウンスを
しますので、職人さんの「わざ」の
一端に触れてみてください。

伝統工芸展実演日程表

日時	午前10時～12時	午後1時～3時	午後3時～5時
29 (水)	←	あめ細工 青木 喜	→
30 (木)	←	あめ細工 青木 喜	→
1 (土)	人形頭製作 小島 孝司 漆 工 近藤 良市 江戸切り 小林 英夫	刺 繡 天野 一政 庖丁製作 吉實庖丁店 提灯製作 杉田 礼二	染織(紋章上絵) 石合 信也 裁着袴製作 富永 皓 木工(彫刻) 岸本 忠雄
2 (日)	江戸切り 須田 富雄 足袋製作 箕輪庄太郎 木工(指物) 山田 一彦	金工(鍛金) 佐生 明義 提灯製作 渋谷 昭男 染織(更紗染) 美弥好染工場	木工(彫刻) 渡邊美壽雄 カンナ製作 花村 義正 染織(更紗染) 美弥好染工場
3 (月)	石 工 新川 昇 漆 工 前田 仁 簾 製作 豊田 勇	木工(櫓楯) 鈴木 延坦 象牙細工 前田 賢次 漆 工 大岩 伸治	

は「わざ」の体験ができます。体験される方は教材費は実費となりますので、ご了承下さい。

チャリティーバザール 同時開催

伝統工芸保存会による作品販売
が、伝統工芸展開催期間中におこ
なわれます。日頃職人さんの作品
を購入したいと思っている方は、
じっくりと作品を見て購入できる
チャンスです。ぜひお立ちよりく

ださい。場所は1階ロビーです。
また販売とともに、職人さんの
仕事ぶりや会話も楽しめる実演販
売も企画されています。実演を見
ながら作品を選ぶのも楽しいもの
です。この機会をお見逃しなく！

江東歴史紀行

大砲も造った

大島釜屋堀の鋳物師

一 幕末期の大砲鋳造

江戸幕府の後期は頻繁に外国船が日本近海に出没し、対外的な緊張が増した時期でした。このような時代背景とアヘン戦争を契機として、天保12年(1841)には徳丸原(高島平・板橋区)で高嶋秋帆(こうはん)による大規模な西洋式の砲術演習が行われています。その後、西洋軍事技術の研究・導入が急速に進行し、国内でも大砲が鋳造されるようになりました。

一宮藩や岩槻藩は、天保期における藩政改革の一環として、川口(埼玉県)の鋳物師に大砲の鋳造を依頼しました。そしてペリー来航前後の老中阿部正弘政権下では、川口鋳物



大砲製作風景
(「川口市史」通史編上より)

師が幕府の軍需工業の下請けに入っていたのです。

さて、江東区内で鋳物師といえば深川上大島町(大島1丁目)の釜屋六右衛門(釜六)と釜屋七右衛門(釜七)が有名です。両家の家の前(釜七)の堀を釜屋堀といい、この周辺の俗称にもなりました。釜屋堀あたりに釜六・釜七のほかにも鋳物師が住んでいましたが、これまで釜屋堀の鋳物師が大砲鋳造に携わったという事実は知られていませんでした。しかし、国会図書館所蔵の旧幕府引継書「市中取締類集」一一七八鉄砲鋳立Vの中にその史料を見つけたので、次に紹介しましょう。

二 上大島町名主茂左衛門の訴状

嘉永3年(1850)6月20日、箱崎町(中央区)の「鉄物并鋳物渡世」惣兵衛が、紀州藩からの依頼を受け、深川上大島町の「鋳物職」吉六宅で4挺の大砲を鋳造することになった、と幕府に届け出ました。

ところが6月22日になると、上大島町の名主茂左衛門が、幕府に一通の訴状を差し出したのです。その内容は、大筒(大砲)を鋳造することになれば、吉六宅は町家続きの裏家であり、大筒の鋳造は「余程之火気」であるため「非常之儀難計」と、その中止を訴え出たものでした。この訴状の中には、釜六と釜七も鞆吹き(たづみ)の差し障りを申し立てている、という記述がありますので、釜六・釜七は大砲の鋳造には携わらなかったようです。

このように、吉六が大砲を鋳造するにあたって、火気の危険を理由に町内から苦情が出たのでした。しかし、24日になると示談が成立し、火の元を気をつけて大砲の鋳造を行う旨を届け出ています。したがって、紀州藩からの依頼による大砲が、実際に吉六宅で鋳造されたと考えられます。

12月9日には、惣兵衛・吉六が豊前中津藩からの依頼による2挺の大砲鋳造を届け出ました。ここからも吉六宅で実際に大砲が鋳造されたこと、釜屋堀の鋳物師が継続して大砲の鋳造に取り組んでいたこと、その鋳造は箱崎町の惣兵衛が仲介している

たこと、がわかります。

三 長州藩の大砲鋳造と

鋳物師との関わりは?



大砲のモニュメント(南砂緑道公園)

区内では嘉永7年(1854)に長州藩の下屋敷(南砂2-13付近)で大砲が鋳造されたことが知られており、この大砲は元治元年(1864)の下関戦争の結果、海を渡って現在もバリの廃兵院に保存されています。

『防長回天史』によれば、江戸に呼ばれた長州藩の鋳砲家・郡司喜平次が、佐久間象山の指導のもとで、葛飾郡砂村の長州藩別邸(下屋敷)内で大砲を鋳造したということです。

しかし大砲の鋳造には、それに携わる職人(技術者)を必要としたはずですから、長州藩下屋敷の大砲鋳造も、地理的に考えて吉六のような釜屋堀の鋳物師が関係していたのではないのでしょうか。このことは史料の裏付けがないため推測にすぎませんが、地域的な広がりのおかげで歴史を見直す素材になると思います。

(文化財専門員 小泉雅弘)

おしらせ

江東区歴史セミナー

近代工業発祥の地を歩く

楽しいお話をうかがいながら、小名木川周辺にある文化財を巡る歴史散歩です。

日時 11月1日(土) 1時～3時30分

集合 猿江恩賜公園

講師 辻 康信(元東陽小学校校長)

定員 30人 参加費 無料

申込 往復はがきで10月24日(金)必着

〒135 江東区東陽4-11-28

生涯学習課文化財係まで

第10回木彫工芸展

～温もりのある

木彫美へのご招待～

木彫刻は、歴史的にみた場合、仏像や社寺建築の木彫装飾物を中心に興りました。木彫刻の職人さんが丹精こめて造り上げた作品約60点が勢ぞろいし、見る人にうるおいと優雅さを伝えます。

今回は、深川江戸資料館で木彫展を開催するようになって10回目の記念展です。日頃の錬磨された技能で造り上げた作品のひと彫りに、職人

さんの息吹を感じとることができるでしょう。

期日 10月15日(水)～19日(日)

会場 深川江戸資料館レクホール

時間 午前9時30分～午後5時

主催 協同組合江戸木彫刻

後援 江東区

江東区中小企業公社

江東史談会例会

日時 10月28日(火) 午後6時

会場 深川老人福祉センター

参加 自由、会費1000円

連絡先 細田隆善(3641)5780

芭蕉記念館から

俳句会

日時 11月18日(火) 午後1時30分

(集合1時15分)

会場 2階研修室

内容 兼題 冬季雑詠3句

席題なし

対象 区内在住・在勤の方50人

(先着順)

費用 無料。句報の送付をご希望の方は、80円切手貼付宛先明記

の封筒をお持ち下さい。

締切 11月17日(月)

申込 窓口または電話で

ジュニア俳句教室

日時 11月8日(土) 午前9時30分

(集合9時20分)

会場 芭蕉記念館2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人

工匠館・職人入門コース

江戸指物

精緻な構成

美の「江戸指物」。

この「江戸指物」

を本格的に学びたい方に朗報です。職人

さんに弟子入りしたように、道具の手入れから作

品の製作まで、「江戸指物」の心と

技術を学ぶ職人入門コースです。この機会にぜひご参加ください。

期間 11月7日～3月13日

全17回 毎週金曜日

時間 午後6時半～8時半

会場 工匠二番館

(森下文化センター内)



(先着順)
費用 無料(筆記用具持参)

締切 11月7日(金)

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3

(3631) 1448

講師 区登録無形文化財保持者

山田 一彦

対象 区内在住・在勤者 15人

費用 8,000円(材料費)

その他、このコースで使用するノコギリ・カンナなどの道具を新たに全部そろえる場合は4万～5万円程度の費用がかかります。

申込 往復ハガキ、抽選

締切 10月22日(水)必着

問合 生涯学習課文化財係

伝統の技 実演公開

毎月第一・第三日曜日に工匠壱番館(森下文化センター内)で行って

います「伝統の技 実演公開」は、

10月および11月の第一日曜日はお休

みのため、次回は11月16日(日)にな

ります。

11月16日 漆工 近藤 良市

*時間は午後1時～3時